



# Good News for Japan **とぎのこえ**

## 苦しむ人々のために

張田 和子



山室 機恵子

皆さんの中には、「山室軍平」と聞いて「ああ、救世軍のね」と思われる方があるかもしれません。日本人で最初の「救世軍士官」(伝道者)になった人です。

その妻である機恵子を記念した「山室機恵子記念チャペル」が、東京・杉並区の救世軍ブース記念病院にあります。ブース記念病院は、今年十一月に開設百周年を迎えますが、このチャペルは、機恵子が病院開設のため、命を削って尽力したことを記念しています。

機恵子は、岩手県花巻の藩士の娘でした。幼い時から感受性豊かな、よく考える子であったようです。教育熱心な親の勧めで十八歳の時に上京し、明治女学校に学びます。明治女学校は、当時、植村正久、内村鑑三、津田梅子などのクリスチャンを教授陣に据えており、機恵子は、キリスト教の感化を受けつつ青年時代を過ごしました。

明治二十八(一九九五)年、機恵子が明治女学校高等科を卒業した年に、救世軍がイギリスからやって来ます。

皆さんの中には、「山室軍平」と聞いて「ああ、救世軍のね」と思われる方があるかもしれません。日本人で最初の「救世軍士官」(伝道者)になった人です。その妻である機恵子を記念した「山室機恵子記念チャペル」が、東京・杉並区の救世軍ブース記念病院にあります。ブース記念病院は、今年十一月に開設百周年を迎えますが、このチャペルは、機恵子が病院開設のため、命を削って尽力したことを記念しています。

機恵子は、岩手県花巻の藩士の娘でした。幼い時から感受性豊かな、よく考える子であったようです。教育熱心な親の勧めで十八歳の時に上京し、明治女学校に学びます。明治女学校は、当時、植村正久、内村鑑三、津田梅子などのクリスチャンを教授陣に据えており、機恵子は、キリスト教の感化を受けつつ青年時代を過ごしました。

明治二十八(一九九五)年、機恵子が明治女学校高等科を卒業した年に、救世軍がイギリスからやって来ます。また、明治末期から大正初期には、結核が猛威を振るい、「国民病」と言われていました。

「年々十三万三千人、一日三百六十人以上、四分間に一人が死んでいる。感染

者は死亡者の十倍と言われているので、百三十万人以上の患者がいることになり、五十人に一人の結核患者がいる」「とぎのこえ」結核特集号大正五年2月11日発行と記録があります。

救世軍は、貧しさのために十分な医療を受けられない人々のための結核療養所の設立を目指します。機恵子はこの難事業に奔走することを決意。建設費を得るために千名にのぼる募金名簿を作成し、身重の体で一軒一軒訪問し、支援の依頼をしました。それは、周囲にいる人々の想像を超える働きでした。

多くの子を育て、自身の健康も十分でなくなっていた機恵子でしたが、今までそうしてきたように、ただ、苦しむ人々のためにひたすら力を尽くしたのでした。

そして、臨月を迎える直前の大正五(一九一六)年六月、入院が必要な状態に陥り、七月四日に男児を出産。その後容態は悪化します。

七月十二日、絶筆「神第一」「幸福は唯十字架のわたらにありませう」を遺し

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。



救世軍ブース記念病院



1916年、杉並に開所した救世軍結核療養所



山室機恵子記念チャペル

※一定基準のもとに国が女性の売春を公認していた(公娼制度)ため、女性の人身権擁護の立場からこれを廃止させようとした社会運動。

〈インタビュー〉



# 祈りの力によって

司令官 大佐 佐々木 大佐  
女性部会長 シエリル・メイナ

ると、迎えに来るだけでした。父はそれからずっと後にイエス様を信じて、天に召されました。祖母の祈りはきかれたのです。

**シエリル** 私の両親は救世軍に通っていましたが、あまり熱心ではありませんでした。私は、信仰深い祖母の姿に大きな影響を受けました。家には祈りの椅子があつて、祖母はそこで聖書を読み、祈り、祈りの日記を書いていました。また、救世軍の小隊（教会にあたる）で活発に活動し、病院を訪問して、患者さんにイエス様による慰めを届けるボランティアもしていました。

神様と生き生きとした関係をもっているのが幼い私にもよくわかりました。

**イエス様を救い主として信じたのはいつでしたか？**  
**ケネス** 六歳でした。日曜学校に通い始めて数週間後です。日曜学校の先生が説明してくれた、イエス様が救い主であることを素直に信じる事ができました。勧められるまま「イエス様、私の心においでください」と祈った時、イエス様が確かに自分の心におられる、と感じました。そして、本当に心が変えられました。私の家は貧しく、与えられるものへの不満と、持っていないものへの不安がありました。

**イエス様が救世軍に来たのはいつのことですか？**  
**ケネス** 高校生の時です。人生で一番素晴らしい出来事でした。仲のいい友人が救世軍に通っていて、私を誘ってくれました。初めて救世軍の礼拝に参加した時、そこにいた夫と、友人、私、そして、

年配の女性の五人でした。彼女は、「祈りの戦士」と言える、祈り深い人でした。そこはとても小さい建物でしたが、私はその時（ここは私の居場所だ）と感じました。まるで家族の一員のように迎えられ、それ以上に、（ここに本当に神様がおられる）と感じたのです。それから、救世軍に通うようになり、小隊長たちも私を大切に育ててくれました。

**お二人の出会いについてお聞かせください。**  
**シエリル** 看護師になったかった私は、高校卒業後看護学校へ進学するつもりでした。ところが、父がそのための書類にサインしてくれなかったのです。私は道が閉ざされて動揺しました。神様は私にどのように生きることを望んでおられるのだろう、と祈りました。その頃、私のいとこが救世軍の士官（伝道者）として、小隊の責任をもっていたので、その小隊での青年の働きの手として働き始めました。神様のために働くことを真剣に祈るようにもなっていたからです。それがケネスの通っている小隊でした。

**ケネス** 彼女が来た頃には、青年



ケネス 彼女は、青年

六月一日付で、日本の救世軍の指導者として、アメリカから、ケネス・メイナー大佐、シエリル・メイナー大佐夫妻が着任しました。母国以外の国での宣教は初めてという二人に話を聞きました。

「日本へ派遣されることが決まった時のことを聞かせてください。」

ケネス 神様は不思議なことをなさる、と思いました。私は海外での宣教を考えたこと

もありませんでしたから。日本人がどのように私たちを受け入れてくれるだろうか、たくさんのお話を学ばなければ、などいろいろな思いが溢れました。

**シエリル** 大変びっくりしました。まず、私の名前をちゃんと呼んでもらえるかしら？と思いました（笑）。実は、青年時代、看護師として海外で働きたいと思っていました。看護師への道は閉ざされたのですが、神様が、このような形で日本に送ってくれたのだ

とわくわくしています。お二人は、クリスチャンの家庭で育ったのですか？  
**ケネス** 両親はクリスチャンではありませんでした。私の父方の祖母が、父に、私を教会に連れて行くよう熱心に勧めたため、ルーテル教会の日曜学校に行くようになりました。祖母は、父に信仰を、と願ひ、私がつきかけになって父が教会につながることを期待していたようです。けれども、父は私を教会に送り届けて



結婚の記念写真

も増えていきました。彼女にはすぐに魅かれましたが、私は内気な青年だったので、声をかけるのにとても勇気が要りました。と同時に、神様が出会わせてくださった方だ、という思いが与えられていまし



備えてくださった存在だ、と確認し合ったのです。

―そして結婚に？

ケネス はい。十九歳の時です。家族からは「若すぎる」と言われました。結婚のため、大学を辞めて、航空機の部品を作る会社に就職し、それから一年後、救世軍士官 (伝道者) となるための学校に入りました。(大学の学びは士官になってから終了することができました。)

つた九歳頃のことです。教会の日曜学校でよく「私は主の軍隊の一員だ！」という明るい調子の歌を歌っていました。その時、不思議なのですが、神様が、「あなたは大きくなったら神様の軍隊の一員になるよ」と語りかけている、という思いがしていました。救世軍、という、軍隊が名前になっっている教会について全く知らない時に、です。その時から、神様は私を救世軍士官として招いてくださったのでしよう。

―それぞれの幼い頃、若い頃に与えられた思いが、今にながっているのですか。ところで、初めて来日した印象を聞かせてください。

ケネス 士官として過ごす中で感じているのは、神様の導きは、私たちの思いを超えてはるかにすばらしい、ということです。日本人、そして、日本の救世軍は、豊かな資源、資産をもっていますし、発明する力、独自のシステムをもっていますね。日本人の忠実さは、ゴミの集積所での分別の様子に感じています。(笑)

日本人の想像力の豊かさが聖霊の力を受けるならば、全世界に影響を及ぼすことでしょう。日本の救世軍もそのようになると信じています。シエリル 私は聖書の御言葉



に信頼しています。ヨエル書に、「わたしはすべての人にわが霊を注ぐ」とありますが、日本のキリスト教の歴史を学ばせていただき、神様ご自身の願いと、これまで献げられてきた多くの祈りによって、必ず、すべての日本人に聖霊が注がれると信じています。ケネス 私は、いつでも、どんな人にもこう問いかけるようにしています。「今、気にかけていること、必要なことは何ですか?」「私にできることはありますか?」「あなたのために何を祈ればいいですか?」

います。聖書に、「わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない」(イザヤ書 55 章 11 節)とありますが、誰しもがもつ悩みは、神に祈るための機会だと思っています。

わたしは、一日も早く、日本にあるすべての小隊を訪ね、その恵の座で祈りを献げたいとも思っています。小隊長と、その地の人々と祈りを共にしたいのです。

―最後に、好きな御言葉を教えてください。

ケネス この御言葉を大切にしています。

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」(エペソの信徒への手紙 2 章 10 節)

シエリル 一つだけ選ぶのはとても難しいですね。神様は折々に御言葉を通して私を支

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご住所
ご氏名



「富士山登山をしてみたいですね。」ケネス

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。

